

オン タイム 音time

野畑小学校 音楽室より
2021.12.17
No.10

12月9日(木) 音楽交流会(6年生→5年生)

◎6年生ふりかえりから

- ・5年生が入ってきたとたん緊張してきて、不安と緊張であまり声が出なかったけどやりきった。
- ・特に視線と姿勢を意識した。指揮も見ないと行けないのでそれに集中しながら姿勢をくずさず歌った。
- ・5年生が見ている緊張したけど、練習の時よりも声が出せてよかった。
- ・卒業式の合唱ではもっと上へいけるよう、日々の積み重ねを大事にしようと思った。
- ・初めて合わせた時は声も出なくてバラバラだったけど、練習をしていくとだんだん声が出て、本番は今までで一番気持ちのこもった合唱になった。
- ・これを全学年に見られるんか…と思ったけど、最後まで歌い切れて、爽快感がすごかった。
- ・後ろから見てみんなの背中がピシッと伸びていて、きれいなハーモニーで泣きそうになった。
- ・音程がずれた所もあったけど、練習でうまくできなかった最後の所をしっかりとのばせたのでよかった。
- ・地声になりやすいので、注意してお腹から声を出すようにして歌った。
- ・声を大きく出せて息も続いて、アルトとソプラノがきれいにハモれて、自分的にはやり切ったと思った。
- ・終わってから先生たちから「君たちならもっと出せる」「卒業式楽しみにしています」と言ってもらった。卒業式しっかり練習して、やり切りたい。
- ・次歌う時は先生たちに「何も言うことがない」と言われるくらいがんばりたい。
- ・5年生からの感想を聞いてとてもうれしかった。伝えなかった気持ちがしっかり伝わっていたから。
- ・指揮者が手をあげてみんなが一斉にザッと足を開く音で、みんなの心が一つになった気がしてうれしかった。5年生がいることを忘れてしまうくらい集中して歌えた。
- ・自分の場所は後ろの方だったけど、前からみんなの声がよく聞こえたからよかったと思う。
- ・緊張のせいかいつもより声が出づらく、全体はよかったけど自分は全力の七割くらいしか出せず、納得できていない。次は全力を出し切って、悔いがないように歌いたい。
- ・はじめの「この青空は」をしっかり出せたからこのままがんばろうと思えた。最後まで8拍のばせた。
- ・5年生が真剣に聞いてくれた。先生や5年生の拍手で涙が出そうになった。

行事の度に確実に一つずつステップアップしていている今年の6年生。卒業式を見据えて、自分に厳しいコメントもちらほら…。「次がんばろう!」の「次」があるのは幸せなことです。卒業式、次はありません。悔いのないようにやり切ってもらいたいです。全力で応援しているよ!

ほめことばの木(各学年の感想)から

- ・うたごえがきれい。(1年生) ・うたがじょうずだった。(1年生)
- ・ものすごくきれいな声だったし声がそろっていた。(2年生)
- ・歌にこめた気持ちがすごく伝わりました。(3年生)
- ・やはり6年生はとてもきれいで、ポカーンと見ることもできない上手さでした。(3年生)
- ・息がそろっていてとてもきれいな歌声でした。僕も6年生になったらみなさんのようなきれいな声を出したいです。(4年生)
- ・さすが6年生!これが野畑のハーモニーなのか!すごすぎる!(4年生)
- ・5年生とはレベルがちがすぎて、来年はその歌声になりたい。(5年生)
- ・ハモりがきれいでした。指揮をする人もいて、ピアノも先生じゃなくて6年生なのがすごいです。(5年生)
- ・声がきれいでみんなそろっているのがすごいと思った。声の強弱のコントロールが上手だった。(5年生)
- ・ハモる部分が自然できれいでした。最後の音をずっとのばして、よく息がもつなと思った。(5年生)
- ・強弱のつけ方が上手で、サビがすごくきれいでした。(5年生)
- ・指揮者に合わせて歌っているのがすごかった。スーっとすきとおるようなきれいな歌声でした。(5年生)



W. D. H~わりと どうでもいい はなし~ ドレッドヘアだった頃の話

※ドレッドヘア→髪の毛を束状に巻いたり、編み込んだりした髪型。パイレーツ・オブ・カリビ안의ジャックスパロウみたいなやつ。

22歳の春、私は大学に休学届を提出し、その勢いでそのまま頭髪をドレッドにしました。同級生たちは皆、社会人として立派に大人の社会へと飛び立っていった折でした。当時の私は本気でミュージシャンを目指していました。元々目はあまりよくなかったのですが、この頃の私が一番見えてなかったものが現実です。こればかりは眼鏡でどうにかなるものではありませんでした。

汚い話ですが、ドレッドヘアだった当時の私は、あまり頭を洗いませんでした。一度濡らすと、乾かすのにもものすごく時間がかかるからです。シャンプーも大変でした。何か月か経つと根本の方は伸びてきて、毛束もほつれ始め、ドレッドが崩れ始めます。また巻き直してもらうのも面倒だし、お金もあまり持っていなかった私は、それまで避けていた洗髪という行為に見出しました。洗面器にお湯を張って石鹸をたっぷり溶かし込み、そこに頭を突っ込んで髪の毛を洗うのです。石鹸で洗うことにより、髪の毛がギシギシになり、ほつれていた毛束や、伸びてきた根本の毛が絡まりやすくなります。自然に絡まっていくので見た目はあまりきれいではありませんが、ともかく私は美容院に行かずしてドレッドの永久機関を生み出したのでした。ちなみにそんな私の洗髪法はバンドメンバーから「お祈り」と呼ばれており、皆で銭湯に行く際のちょっとした名物になっていました。長くなりそうなので次回に続く…。

